

特集2 アドバタイジング・ウィーク(AW) 日本開催が、次にもたらす事

デジタルインテリジェンス ニューヨーク 榮枝 洋文



写真1:増上寺の前で開かれた第一回アドバタイジング・ウィーク・アジアのオープニングセレモニー。

ニューヨークで毎年九月後半に開催される「本家AW」は、世界中の広告会社、広告主、メディア、アドテクノロジー企業が一堂に集まる広告業界の一大イベントだ。開催期間は一週間で約十万人の動員をするという、カンヌライオンズ国際フェスティバルに匹敵する規模。毎年J.A.A.A.の米国研修団もこの開催時期に合わせてスケジュールが組まれ、日本からの出張者も一〇〇人規模で参加している。

今年のAW「第一回」東京開催の実現は、組織建てから運営取支に至るまで、急転直下で決まったが、電通が「がっぷり」参画をコミットしてくれたおかげで、業界を超えた産官学の参加を促し大盛況となった。オープニング・セレモニーは増上寺の境内屋外で東京タワーの夜景をバックに幻想的な演出で始まった(写真1)。

「ニューヨーク、ロンドン、次はどこか」

グローバル・ホールディング会社の



写真2:ロンドンでのAWヨーロッパでのオープニング招待状。英国宮殿への招待状。

と続く。元々AWはオムニコムとIPGのお膝元であるニューヨークから始まり、その後「AWヨーロッパ」としてロンドンに飛び火し、現在は英WPPマーチン・ソレルCEO、仏ビュプリシスのモーリス・レヴィCEO自らが登壇する一大イベントとして成長している。二〇一四年のオープニングセレモニーは英国宮廷からの招待状による宮殿の中の施設で行われた(写真2)。

この二〇一四年のAWヨーロッパでのミーティングにおいて、次なる「AWアジア」の会場はどこか都市が良いかと、AW主催者(Stillwell Partners)が選定中に、「世界三大マー



写真3:アジアからの来場者を想定し、日本語、中国語、英語の同時通訳が準備され、同通イヤホンは無料貸出になっている。

ケットである、東京だ」と押しつけた筆者、きっとJ.A.A.A.参加企業も共感してくれるに違いないと信じた。電通やJ.A.A.A.を始め、耳を傾けてくださった方には感謝と敬意でいっぱい。

国境、業界、職種を超えて包括するAWアジア

AWアジアでは日産、資生堂、楽天、LINE、リクルート等のマーケティング側の社長、役員、キーノート・スピーカーから現場の施策やツールの紹介まで、非常に幅広い分野のセッションが網羅された。テクノロジを切り口とした「アドテック」

や、クリエイティブを切り口とした「カンヌ」等のシングルテーマではなく、AWの特徴は「包括イベント」であることが特徴だ。業種だけでなく職種で考えても、クリエイティブからマーケティング、メディア、営業から経営に至るまで日本語・英語・中国語を超えて「会する事ができる」イベントとなった(写真3)。

セミナーコンテンツを「聞く」よりも、自らが「話す」事を

ところで、「真面目な」AWアジア参加者が、講演内容をラップトップにメモをとったり、スライドを逐一スマホで撮ったりする風景を頻繁に見かけた。実はあの議事録光景は「日本(の人)ならではの」象徴であったりする。セミナーのコンテンツの内容が重要ではないとは言わないが、セミナーコンテンツの議事録作成は程々で良いと考える。

(国際)コンベンションの開催意義とは一堂に会する事を「ブック」として、参加者自らが「話す(アウトプットを行なう)」事により、「相互」の情報交換が出来る場所を作る事。平たく言えば「参加者が一人に会って話しをし」、「アポを入れて食事をし」、「期間中に別会場でミーティングを行なう」機会を「仕掛ける」事こそが、目に見えない価値を生む。

例えば(懂れの)登壇者の講演をしっかりと拝聴し、その後でステージの袖で登壇者に挨拶をして感想を述べる、こんな事でも良い。写真4は米国から招かれたゲストのオムニコムの創業家という「レジエント」を囲む参加者若手の風景だ。キース・ライノード氏(写真左)がセミナーで話した内容のインパクトは元より、その日、氏と共に「話をした事」がその本人の未来にとって、そして登壇した氏にとっても新しい価値になる。

AWビデオコンテンツはオフィシャルサイトで公開

実際にAWのセミナー・セッションで話されている内容は、ストリーミング放送されている※。つまり、セミナーのコンテンツそのものをレポートしたければ、自宅からでも視聴可能なのだ。会場では、現場でしか作ることができないAWとしての「繋がりを増大させる」価値に集中すべきであろう。

来年第二回AWアジア開催は、さらなるVIP招聘があると期待する。申込み参加を考える人は是非、最上位の「スーパードレゲーション」パスの購入をお勧めする。業界VIPが集合する貴重なオープニングとクロージングのパーティーでの「アウトプット」会話を作るために。

※<https://www.advertisingweek.asia/live/>



写真4:オムニコム創業のレジェンド、キース・ライノード氏を取り囲む日本の若手。

